『むくげ通信』２３１号（2008.11.30）　２１～２２頁

# 済州島・李仲燮（１９１６～１９５６）美術館が、とてもいいです

飛田雄一

最近の私の韓国は、済州島。毎年のように訪問し、今年も２回行った。２月にキリスト教の会議があり、１０月には２回目の済州島一周サイクリングに行った。サイクリングの方は、昨年初めて在日韓国人の友人に連れていってもらって快適な一周 250 キロのサイクリングを楽しんだ。一度行けばいいと思っていたのに、また今年も行ってしまったのである。「ゆうさんの自転車／オカリナブログ」（「飛田雄一」「ブログ」で検索）に写真がふんだんに入ったものがあるので、興味のある方は是非のぞいてみてほしい。

さて、２月の訪問のときに済州島の南に位置する西帰浦（ソギッポ）の「李仲燮美術館」を訪問した。とてもよかった。帰国後、日本語の済州島ガイドブックを本屋で片っ端から読破したが、どの本にもこの美術館が紹介されていない。李仲燮は日本に特に関係の深い画家でもあり、是非、紹介したいと思い、紹介の文章を書かせていただくことにした。

●

**李仲燮美術館**

李仲燮美術館は、1996 年 3 月に韓国で初めて画家の名前がついたという「李仲燮通り」にある。彼は 1951 年 1 月から 12 月まで西帰浦に住み、「西帰浦の幻想」「カニと子供」「森島が見える景色」などの作品を書いた。彼が暮らした小さな家のあたりに「李仲燮通り」が作られ、美術館もその通りにある。

**李仲燮の生家**

もっとも有名な作品が「夕焼けに叫ぶ牛」のようだ。彼の絵は高価なもので、サムソン財閥が買い占めているとも聞いた。またインターネットで調べてみると「贋作」事件がよくおきているようだ。俳優・朴根瀅が主演して映画「画家・李仲燮」にもなっている。是非、観たいものだ。

**「夕焼けに叫ぶ牛」**

李仲燮は、現在は平壌の生まれ。五山高等普通を卒業後、日本に渡り東京文化学校美術科で学んだ。在学中の 1937 年に日本の前衛的美術団体の自由美協展第 7 回に出品して太陽賞を受賞し、1939 年に自由美術協会の会員になる。解放後 1945 年に朝鮮

へ帰国して、元山で日本人の山本方子（朝鮮名・李南徳)と結婚。元山師範学校教員だった時に朝鮮戦争が勃発した。

1952 年に日本人の妻が生活苦で二人の息子と共に日本に帰り、波止場で労動をしながら休戦を迎えた。それからソウルに上京して、1955 年に美都波画廊で彼の生涯でたった一度の個展を開いた。その後、日本へ帰った家族に対する恋しさと生活苦が重なって精神分裂の症状がで始めた。そして、1956 年に赤十字病院で肝炎のため生涯の幕を閉じたのである。

（ http://travel.innolife.net/list.php?ac_id=15&ai_id=516）

●

美術館を訪ねたとき、ボランティアガイドの康致均さんが案内してくださった。ご近所にお住まいで、李仲燮が西帰浦にいたときのこともご存知の方である。美術館の展望台で、李仲燮が描いた目の前にひろがる景色を見ながら説明もしてくださった。とてもすてきなおじさんである。ありがとうございました。

**ボランティアガイドの康致均さん**

日本に李仲燮の家族たちがおり、その親族のあいだでホームページもつくって交流しているという話も聞いた。いろいろ検索してみたが発見できなかった。

美術館のパンフレット（日本語あり）には、「彼の芸術世界を成す基盤は徹底して自己の生に由来するものである。生活の苦しい中、家族を日本に送り全国をさまよいながら孤独に製作した苦痛の産物であった彼の作品は、1970 年代に至り新たに評価されるようになった」とある。

毎年 9～10 月、４日間にわたって李仲燮通りで芸術祭が開催されている。これにも参加してみたいものだ。

済州島・西帰浦に行かれるみなさん、是非、李仲燮美術館にお立ち寄りください。

**李仲燮も描いた島／美術館屋上より**

**気に入った一枚を買ってきました**

**済州島西帰浦市李仲燮通り 87（西帰洞 532-1）**
**TEL/FAX　064-733-3555**